

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動を実際取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

しら おい ちやう

○白老町 2019年11月7日 場所：北海道白老町

◆様々な文化と想いをつなぐ多文化共生の巨大パッチワーク

白老町は、北海道南西部に位置し、湖、山、海、そして温泉、と豊かな自然あふれる人口約1.7万人のまちです。

アイヌの歴史が息づき、2020年4月には国立アイヌ民族博物館を含む「民族共生象徴空間（ウポポイ）」が誕生する白老町では、「多文化共生のまち、しらおい」としてまちづくり政策の柱に多文化共生を掲げています。白老町における多文化共生の取り組みについて、白老町 経済振興課 観光振興グループの鈴木領祐主任にお話を伺いました。

白老町での取り組みを象徴するのが「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」です。当初はアイヌ文様の刺繍を施した布を繋ぎ合わせていましたが、その後、アイヌ文様だけではなく、様々な布を繋ぎ合わせたり、ハワイやタイ、台湾やロシアとの交流による作品制作など、多様な文化や想いをつなぐプロジェクトとなりました。白老町には、仙台藩白老元陣屋資料館があり、虎杖浜には越後踊りの文化があるなど、アイヌ民族の方たちをはじめ、様々なルーツのある方々に町の発展を支えられており、多様な文化を受け入れる土壌があるように思います。今後も発展的に活動できるよう町として協力していかれるとのことです。



パッチワーク作品をまとめた冊子↑

◆白老町地域おこし協力隊 プロジェクトデザイナー 林啓介・オルガ夫妻



↑林啓介・オルガ夫妻とパッチワーク作品

そのパッチワークの会を語る際に欠かせないのが地域おこし協力隊として白老町に移住した林啓介・オルガ夫妻です。お二人は民泊を経営する傍ら、巨大パッチワークを全国、世界へ広める活動をされています。「多文化共生」という、つい身構えてしまいがちですが、そうではなく、それぞれが自分の日常にある布を持ち寄り刺繍をし、それをつなげる、という人々の生活に根付いたプロジェクトであることが持続性の鍵だということ、また多文化共生を目指していたわけではなく、やっていたことが気が付いたら「多文化共生」といわれることだった、と話していたのが印象的でした。オルガさんの出身地であるロシアやカナダ、フィンランドで展示を行ったり、民泊に来る世界中からのゲストとの交流を通じてパッチワークの取り組み、ひいては白老町のアイヌ文化はどんどん活性化しています。

民泊では地元の自然や料理を紹介したり、白老町ならではの体験を提供しているお二人。

お二人が手掛けるブレンドハーブティー（白老町で採れる野草と京都の茶葉をブレンドしたもの）のように、その土地に根付いた文化を大切にしつつ、新しい文化とブレンドさせていく、そんな白老町の取り組みの今後の展開が楽しみです。



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



○NPO法人AsiaCommons 亜洲市民之道 2019年11月26日 場所：東京都北区

国籍・宗教・年齢を問わず市民が集まる場「アジア図書館カフェ」

NPO法人 Asia Commons 亜洲市民之道は2011年に設立され、中国、韓国、台湾をはじめ、世界の市民同士の交流を目的に、草の根の国際交流や異文化理解講座の開催、翻訳・通訳などを行っています。活動をする中で、拠点となる「場」が必要ではないかと考えていたところ、高齢化と多様化が進む豊島五丁目団地の住民から相談があり、自治会や商店街の理解を得て団地の1階にある「わくわくステーション」を借りて「アジア図書館カフェ」を始めるようになったそうです。毎週火曜日に開催されている「アジア図書館カフェ」を訪ねました。

4,900世帯、東京都北区最大の団地でもある豊島五丁目団地では中国からの移住者が多く、当日も中国人住民の方々日本語の勉強に来られていました。代表の麻生水緒さんや日本人住民が先生となって、マンツーマンもしくは少人数でその人にあつた日本語学習のサポートをされています。また、進路相談をする台湾の青年や日常の困りごとの相談にきた韓国の住民の方、絵本の読み聞かせをしてもらう外国ルーツの子どもまで、様々な人が集う場となっています。相談内容は、幼稚園の面接の練習や連絡帳の解説、就職の面接練習、不動産の賃貸契約のサポートなど多岐にわたります。日本人住民の方も積極的に関わっているのが特徴で、日頃の活動以外にも、団地に住む医師との共催による無料の健康相談会を実施しています。自治体との連携も少しずつ始まっており、北区主催の外国人住民向けイベントの情報を外国人住民に伝える拠点にもなっているそうです。最近、近隣にある私立高校の高校生が授業の一環として参加しており、英語や中国語、やさしい日本語でコミュニケーションをとっているのも印象的でした。高校生が参加するようになったことで日本人住民が高校生から英語を習うようになるなど、「外国人支援」という枠組みにとらわれない広がりを見せています。

「支援者」と「外国人」だけではなく、日本人住民・外国人住民・NPO・近隣の市民（学生）が共にコミュニティをつくる様子は、まさにアジア図書館カフェが掲げる「国籍・年齢を問わず、共生をモットーに活動する場」となっています。豊島五丁目団地のあり方は、多文化共生の今後にとって大変示唆に富んでるのではないのでしょうか。



豊島五丁目団地の様子 ↑



わくわくステーションの入り口 ↑

○地域国際化ステップアップセミナーin札幌 2019年11月8日 場所：北海道札幌市

令和元年度地域国際化ステップアップセミナーin札幌「フェアトレードと持続可能な地域づくり～パートナーシップで広める身近な国際協力～」を開催しました。当日は53名の方に参加いただき、フェアトレードの今後の広がりについて事例紹介やパネルディスカッションを行いました。全国で5番目のフェアトレードタウンとなった札幌市の自治体、国際交流協会、NGO関係者の方々に



↑フェアトレードとSDGsの関係についてもお話しいただきました。

加え、これまでフェアトレードに関わりがなかった市民の方や、札幌市以外にも全国の9つの自治体・地域から参加をいただいたことで、地域としてフェアトレードをどう推進するかについて共に考える機会となりました。報告書を市民国際プラザのWEBサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

市民国際プラザWEBサイト：<http://www.plaza-clair.jp/>

また、次回の地域国際化ステップアップセミナーは『多様なセクターとの連携・協働～外国にルーツのある人々の乳幼児期から老年期まで、ライフサイクルに応じた「支援のつながり」を構築、強化するために～』と題し、愛知県名古屋市で1月23日に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。